

---

## DMORT

(吉永和正ほか、救急医療ジャーナル 19: (1) 56-61, 2011)

2012年5月25日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

「DMORT」とは、Disaster Mortuary Operational Response Team の略であり、「ディモート」と発音される。死亡者に対してではなく、死亡者の家族への対応がこの活動の中心となる。大災害においては、死者の発生は避けられないものであるし、その家族や支援者にも適切な医療が提供されなければならないことは当然であるが、忘れられがちである。この視点から提唱されたものが DMORT である。しかし、まだ発展途上の組織でもあり課題も多い。

DMORT 導入のきっかけとなった、1995年1月17日に起こった阪神淡路大震災では、いままでの災害対策では補いきれないほどのスケールのもので、医療に関しても多くの課題が残された。具体的にはヘリコプター搬送システムの導入や、トリアージタグの色の並び方の標準化といったものであった。2005年の JR 福知山線列車脱線事故では、阪神淡路大震災を経験した同一の地域であり、この10年間での災害対策医療の進歩が試されるものとなった。そこでは、ヘリコプター搬送や、標準化したトリアージが利用された。通常、黒タグをつけられた者は重症患者であり、救急の現場においては円滑な治療を目指す中で、医療機関に搬送されることを見送られる指標となるものである。この黒タグと判定された症例も多数あり、救命不能患者を救急車に乗せることなく傷病者を円滑に搬送することができたという評価を受けた。しかし、黒タグをつけられ、その現場で死を迎えた犠牲者の遺族がそのことを受け止められず、心療内科的に重大な影響を受けているとの報告があり、災害医療において「遺族」という視点が検討されていなかった事実を露呈する結果となった。

前述のような問題提起をうけて研究会を結成し、災害医療関係者及び心療内科、臨床心理士、看護師、救命救急士、法医学者など多数の職種が集まり2006年に「日本 DMORT 研究会」が立ち上がった。モデルとしたのは米国の DMORT であった。米国 DMORT のもっとも重要な役割は、個人識別であるのだが、日本において個人識別は警察の管轄であるし、我が国における DMORT のあり方においては遺族のケアを最重要課題にしているため、日本の理想とする DMORT を実現するために今も日々課題を整理し、検討している。

日本 DMORT の活動方針としては以下の3点が挙げられる。

① 現場 DMORT

- ② 長期遺族支援
- ③ 研修、啓蒙活動

#### ① 現場 DMORT

これがチーム活動としての最も重要な部分であり、ほかの組織では対応できない部分もある。内容としては接触する家族、知人、関係者を対象として心理的支援と情報収集支援を行う。また、災害医療環境下においては、遺族と接するメンバーは日常の医療支援活動医療に比べ、高いストレスに曝されるため、チームメンバーへのメンタルヘルスケアも重要となってくる。

#### ② 長期の遺族支援

JR 福知山脱線事故の経験から、遺族は長期にわたって十分な医学的説明がなされていないことが判明している。現場で簡単な説明を受けていれば容易に解決できるような問題も、長期にわたる不審感を抱かせる原因になりうる。現場では動揺や混乱のために情報収集が難しい場合もあるが、後日にでも十分な説明を受けられる体制が整っていればこの問題は避けられる。この体制づくりの支援も DMORT の役割である。

#### ③ 研修啓蒙活動

定期的な「DMORT 養成研修会」開催している。ロールプレイで実際の対応を学ぶとともに、遺族側の心理を理解する場でもある。このような研修会の承了者が今後の研修指導者となることや、全国の災害対策研修会での DMORT 活動を導入する役割を果たすことを期待している。

### 今後の課題

今後実際に現場で活動するためには大きな課題が大きく分けて2つある。その第一はチームの派遣主体に関することである。DMORT の場合医療機関ごとにチームを組むのは困難であり、現場に集まってチームを編成することになる。米国 DMORT では事前登録をしておき、必要な場合に現場での活動が可能なメンバーが出向く方式が整備されている。日本もそれに習うのが理想であるが、現段階においては JICA に相当する組織が日本では決まっていないため困難である。二つ目は警察や DMAT との連携についてである。これらの組織とは、事前に話し合うことでそれぞれの活動や役割を把握しておかなくてはならない。

### まとめ

救命を目指した災害医療の進歩には目覚ましいものがあるが、その一方で災害の死亡者家族対応の整備は大きく後れを取っている。すべての災害者に適切な医療が提供されるという観点から死亡者家族にも現場から適切な医療を提供することを目指しているものが DMORT である。まだ課題も多いが、DMORT の広がり全体が全体の医療水準の向上につながることは間違いない。